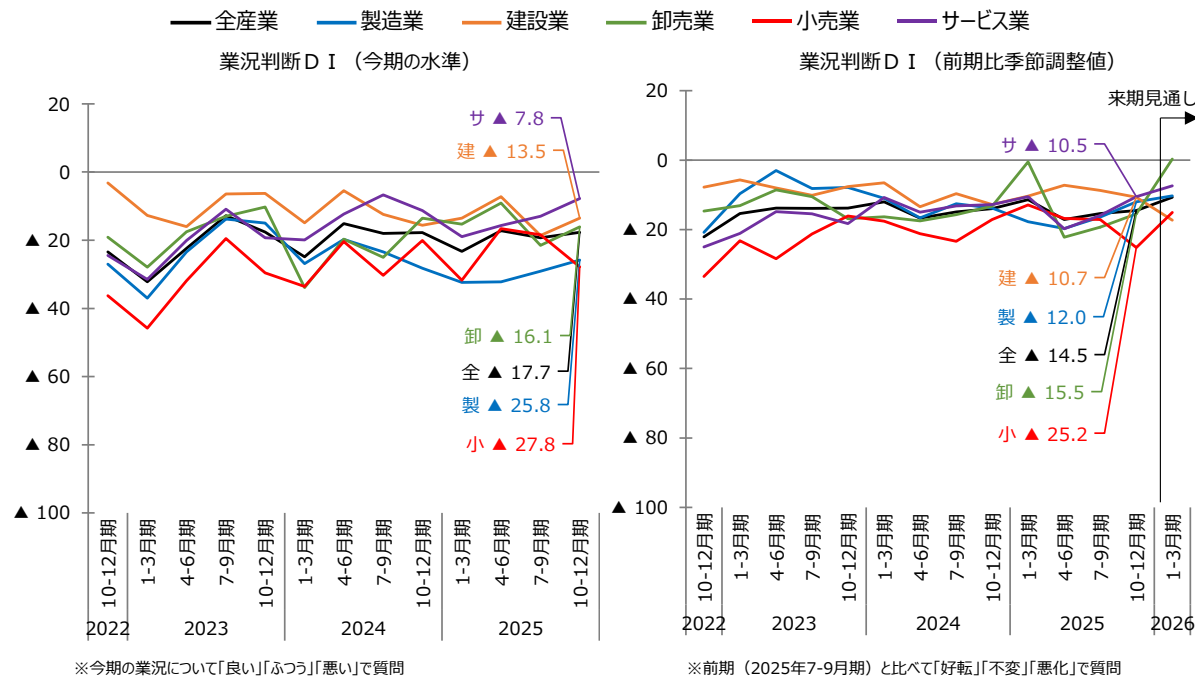


第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 北海道



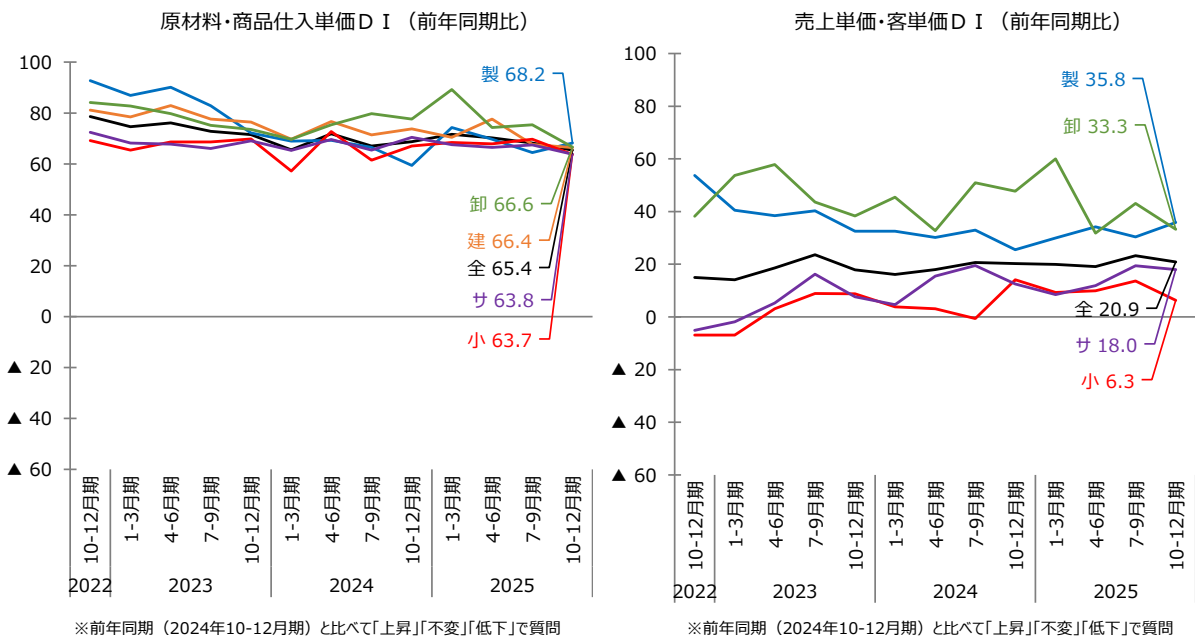
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より1.6ポイント増の▲17.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、建設業、製造業で上昇し、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.8ポイント減の65.4と3期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.3ポイント減の20.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業  
今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、北海道：723企業

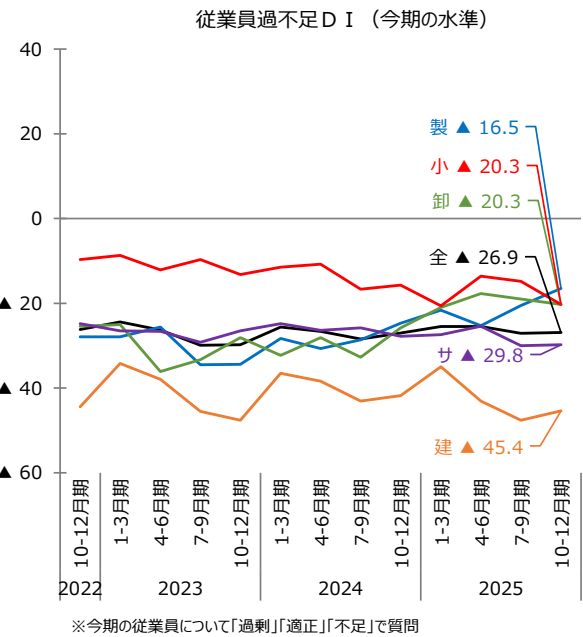
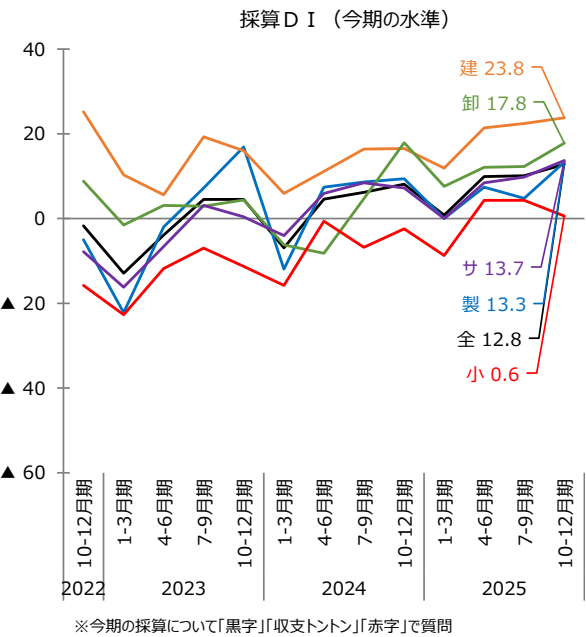
※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

3. 採算

採算DIは、全産業で前期より2.7ポイント増の12.8と3期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、サービス業、建設業で上昇し、小売業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で0.2ポイント増の▲26.9で3期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、製造業、建設業、サービス業で上昇し、小売業、卸売業で低下した。



5. 北海道の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	物価高と人件費の上昇、資材の値上がりにより利幅が狭くなった。	製造業	野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業（野菜漬物を除く）
	建設業において、官公・民間を含めた需要の伸び悩みに加えて、従業員確保が非常に困難になっている。	建設業	土木工事業（別掲を除く）
	昨今の物価をはじめとした全ての高騰による影響を受け、物件の先送り・中止となるケースが増えており、受注が減少している。	卸売業	その他の建築材料卸売業
	11月はイベントもなく観光の閑散期であるのと、例年より気温が比較的暖かく降雪も少ないため冬物需要が伸びず来店客が少ない。	小売業	かばん・袋物小売業
	病院関係の取引先が、設備投資を控えている。	サービス業	情報処理サービス業
見通し	今年は昆布も豊富にあり、一定量を確保できたが、現段階で来年の昆布はほぼ見られず、原材料不足が懸念される。	製造業	海藻加工業
	工事受注は昨年並みであるが、資機材、下請施工費の高騰により利益率は減少している状況。管内に管外からの業者が参入しているため、今後の受注は難しくなるとされる。	建設業	一般土木建築工事業
	AIの普及が進む中で、人としての経験値と技術力の必要性の位置づけが課題。	卸売業	電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）
	個人消費は物価上昇の影響も受け、一部の好調な業種はあるが、依然として厳しい。インバウンド需要が見込める業種は国内客よりも価格に左右されずに買い求めるので利益が見込める。	小売業	他に分類されないその他の小売業
	原材料費の高騰が続いている。今後、値上げの品目数が増加すると、利益が圧迫され収益状況が厳しくなることが予想される。	サービス業	食堂、レストラン（専門料理店を除く）

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)